

来世をまともに見つめるのがとても恐かったのです。なぜなら私の学びの姿勢が肉的な苦しみを軽減していくことにあったからです。今学んでいれば来世はきっと楽で素晴らしい人生が保障されるという願いが、肉的他力的な思いが歴然としてあったからです。そんな思いがあるということを認めるのもいやでした。来世に思いを向ければ向けるほど、そんな生易しい人生ではないということをひしひしと感じます。肉を基準にしていては、恐怖の余り気が狂うかもしれないと感じます。恐怖の余り死を選ぶかもしれない感じます。来世の供養とは、いよいよ意識の転回をしない限りできるものではないと感じます。自分は意識だと永遠の生命だと確信してこそ、本当の安らぎと喜びで満たされていくのでしょう。来世に意識を向けた時絶望と呪いがふきててきました。アルバートに心を合わせていくとそれが消えていく体験をしました。息もできない苦しみがほどけていくのです。

アルバートに心を合わせていくこと、それが自分自身を救っていく唯一の道だと確信しました。アルバートの波動をしっかりとこの心にいだいて、どんな環境にあっても来世アルバートに出会うまで心の旅をつづけていきます。